

総主題 虹の架け橋を見上げて

副主題 平和、寛容、多様性へ

日本福音ルーテル教会
女性会連盟

会報

26期 169号

2024年10月20日発行

わたしは雲の中に虹を置く。

これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。創世記9章13節

契約のしるし

日本福音ルーテル保谷教会

牧師 平岡 仁子



神は言われます「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。」(創世記9章9節)。創世記において神は全てのを創造されます。しかしその後、神によって愛と互いへの配慮に満ちて創られた世界はことごとく壊されて行きます。人間は神を裏切り、異なる存在の象徴である「男と女」もまた、自分の罪を認めず、遂には兄弟による殺人へと、神からかけ離れてゆく人間の姿が描かれています。それは神様がお創りになった互いに愛し合う世界の崩壊を表します。人間の欲望は人間の間に留まらず、大地・自然・動物をも破滅へと導くことになるのです。そして、神はそのような人間の姿を悲しみ、心を痛めたと聖書は語ります「主は地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのをご覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。」(6章5～6節)。神はご自分がお創りになった世界に心を痛め、悲しみます。そして、洪水を起こし、大地は水で覆われるのです。しかし、全てを滅ぼし尽くしませんでした。何故なら、全てを消し去ってしまうのではなく、この物語は神による再創造の物語だからです。神はノアの家族を残します。ここに神の御心がありました。そして洪水の後、神は二度と洪水を起こさない約束のしるしとして空に虹を置くのです「あなたたちならびにあなたたちと共にいる全ての生き物と、代々としえにわたしが立

てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。」(9章12～13節a)。虹は神様が被造物との間に立てられた永遠の契約のしるしとなったのです。

そして、女性会連盟第26期が掲げた総主題はこの創世記の御言葉に依って立っています。総主題「虹の架け橋を見上げて」、では私たちが見上げる虹の架け橋とはどのようなものでしょうか？ 神様は新たな始まりを示す契約のしるしとして、空に虹を置きました。しかし、それは人間が悪い思いを持たなくなったということではありません。そうではなく、神が心を変えたというのです。そして、そのしるしとして虹を置いたと。神様は私たちを赦し、私たちを神との永遠の契約に招き入れてくださいました。そして、この創世記の再創造物語はキリストの約束・洗礼を私たちに想起させるのです「この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通して救われました。この水で前もって現された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。」(ペトロの手紙一3章20～21a節)。

第26期女性会連盟の働きがキリストの約束に堅く立ち、赦しによる平和、他者に対する寛容、差別なき多様性という豊かな福音の実を結びますように祈ります。女性会連盟が見上げる虹の架け橋がこの世を生きる言葉無き、力なき人々に、生きる希望と勇気を与えますように。